
まさかの出来事

kamall

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まさかの出来事

【Nコード】

N5774D

【作者名】

kamall

【あらすじ】

ごくごく普通な女子高生の優輝はある日を境に・・・になってしまいい！？どたばたラブコメディの予定です・・・

運命の日（前書き）

おかしいな表現もあるかもしれないですが、そこわ大目に見てやって下さい……評価感想お待ちしております……！！

運命の日

1月1日 元旦 初詣

「うゝ寒いつ！」

あたしがこう呟くと隣に居る親友、夏輝も

「寒いねゝ」

と呟く。女のあたしが言うのもなんだけど、夏輝は完璧だ。

スラーッと伸びた長い手足。整った顔立ち。おまけに成績優秀。運動神経抜群とゆうオプシヨンまで付いてくる。

隣で歩いてるだけでなんだか誇らしい気持ちになってくる。

とかいってただ単に夏輝みたいにモデル人種になりたいのかもしれない。

たまに夏輝の親友はあたしでいいのか？

なんて思っくらいだ。

打って変わってあたしはどこにでも居るようなごくごく普通の女子高校生。顔だって可愛い訳じゃないし、成績だってよくない。・・・はあ、考えるだけで虚しくなってきた。

よし！やめた！ポジティブシンキングで行こう！悩んだってしかないよね。

でも今日は初詣しに来たわけだし、神様にお願いくらいはしてもいいよね・・・！

「どうか神様あたしをモテモテにしてください!!」
力強く願った。

「夏輝い！何お願いした？」
あたしが聞くと、夏輝は少し頬を火照らせて答えた。

「あたしね、今好きな人が居るの。だから、その人に想いが届くようにって。」

テレながら喋る夏輝はとても可愛くて・・・ってええ！？好きな人居たんだあ！

「え！？だれだれっ？」
あたしが少し興奮気味に聞くとなんと驚きの返事が返ってきた。
「えつとお・・・同じクラスの松田くん。」

えっ？今松田って言った！？ありえない・・・だってあの夏輝が松田だなんて・・・ねえ？もう一回聞くことにした。

「ごめん・・・もう一回言ってくんない？」
すると夏輝は小さい声でまた同じ事を言った。

あたしはショックだった。なんせ松田は学年でもかなりのキモ面（

不細工でヲタク）だったから。

あたしは

「やめときなよ」と言おうとしたが、その前に夏輝が口を開いた。

「分かつてる。あたしじゃ松田君にふさわしくないって事くらい。やっぱり無理な恋なのかなあ」

いやいや、逆だよ逆。夏輝がふさわしくないんじゃない、松田がふさわしくないの！

とか心の中では思いつつも言葉では

「そんなことないよ！応援してるから頑張ってね！」
なんて言っていた。

あゝあ松田も随分偉くなったもんだな・・そんな事を考えていると後ろから

「ぽん」と背中を叩かれた。

夏輝かと思って振り向くと、そこには一人の少年が立っていた。するとその少年が訳のわからないことを喋り始めた。

「お前は先ほど神に対して何を願った？」

子供の癖にかなり偉そうだ。あたしはムツとしながらも素直に答えた。

「あたしをモテモテにして下さいって頼んだの！」
するとその少年はにこつと笑って

「その願い叶えてしんぜよう。」

と言った。あたしはその少年が何者なのか気になり、訪ねてみた。

「君は何者なの？まさか神様とか言うんじゃないでしょうね？」

ちよつとふざけた口調で聞いてみた。するとその少年はにやつと笑って

「その通りだ。我が名はヘネシス。見た目は少年だが中身は113歳だ。」

その衝撃的な告白を聞いて、あたしは

「ぷ」と噴出していた。

「はあ？ありえないっての！」

あたしはこの面白い少年を夏輝に見てもらおうと声をかけようとした。そのとき後ろから夏輝の声がした。

「もう優輝！なにやってたの？人が心配して探しに来たら一人で喋ってるし・・・どうしちゃったの？」

ん？一人？

「何言ってるの！そこに男の子が・・・」

そういつて振り向くとあの少年は居なくなっていた。

「もつつ本当に大丈夫？熱でもあるんじゃないの？」

うそー！？なんでえ！？さっきまで居たのに・・・もつどうなったんの！？

「嘘じゃないって！さっきまでそこに男の子が・・・」

「ぺちっ」

おでこに痛みが走った。なにやら夏輝がでこピンをしてきたようだった。

「もう！いい加減にしないとおこるよ！？」
「どうやらご立腹のごようすだ。」

「あゝごめんごめん！もう言わないから許して？」
ほんとに居ただけだなあ。

「うん。分かればよろしい。」しょうがないと言わんばかりの顔だったがなんとかお許しをもらい、家路につくのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5774d/>

まさかの出来事

2010年12月22日02時17分発行